

建築主：<sup>おほひ</sup>意富比神社（船橋大神宮）  
 設計：株式会社 社寺建築研究所一級建築士事務所  
 施工：株式会社 大林組  
 所在地：船橋市宮本5-2-1

未来に蘇る、極彩色を纏った伝統木造建築社殿

ときわ  
常磐神社



本殿(南西面)：総漆塗、彩色仕上げ

千九百年の歴史を辿ると伝えられる船橋大神宮意富比神社は、かつて海に面していた。戦後の埋め立てによってその面影は失われたが、高台に残されている漁師のための灯台の存在が、そのことを今に伝えている。

境内の一角に方形の透塀に囲まれ、唐門奥に鎮座する本殿に<sup>やまとたけるのみこと</sup>日本武尊を祀った小ぶりの常磐神社がある。徳川秀忠が寄進した社殿だが、戊辰戦争の余波で焼失した。再建されたものの老朽化した社殿が家康没後400年を機に、目にも鮮やかな漆と極彩色を纏う伝統木造建築として平成27年10月に建て替えられた。普段は開けられないことのない漆黒の漆で塗り込めた本殿内陣には、日本武尊、家康、秀忠が祀られている。

長い時間を経る前の文化財的建築を評価することは容易ではない。しかし、ここにある伝統文化の極みのような作品には、現代建築に対するある種の批評性を見取ることができる。美しいプロポーションの木組みの構造から、漆の塗

装、金物装飾の細部に至るまで、今に伝承される膨大な建築知識と技術が惜しみなく駆使されているからだ。完成後間もない時点にあってもその文化的価値は尋常ではない。発注者はもとより、手練れの設計者、宮大工、工匠、建設会社等による優れたコラボレーションによって実現した希有な成果に対し、その労を多としたい。

なお、こうした作品を想定していない本建築文化賞の趣旨から、「最優秀賞」とすることには異論があった。そして、将来時を重ねながら広く社会に受け入れられることを強く期待し、現時点では「優秀賞」とすることが適切と判断されたことを付記したい。

(岩村 和夫)



本殿 向拝：軒先および建具 銚金物  
(銅製打出し、金箔押し)



本殿彫刻(柱頭部)：木鼻彫刻(獅子)